

第 2 章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼):米永 一郎

図書係長:勝本 加奈子/図書系職員:小飯塚 猛/事務補佐員[3名]

【図書電子化委員会】(2010.3.18- 図書整備委員会)

委員長 准教授:大山 研司

委員 准教授:木口 賢紀

助教:家田 淳一、桜庭 裕弥、池田 一貴、宮本 吾郎、志村 玲子、太子 敏則(-2009.11.30)

オブザーバー 教授:米永 一郎

総務課長:齋藤 茂

1. はじめに

図書室では、1800年代から今日までの材料科学に関する幅広い領域の資料を収集・所蔵している。金研が歴史的に金属・材料研究の中心であり、また全国共同利用機関であること、さらに物質・材料学では世界の最先端に位置することから、所内・学内はもとより国内外の研究者の来訪も多く、図書室は幅広いサービスを提供している。

2. 組織・運営

図書室は、図書係として金研事務部総務課に属し、係長を含む職員2名と事務補佐員3名で業務を行っている。その運営は情報企画室のもとで行われ、専門委員会である図書整備委員会と連携して進められている。

業務の特徴として、部局図書室としては唯一図書館本館を介さない図書受入・支払→目録・分類→登録の体制を維持し、研究者へ迅速に資料を提供している。また学術情報の整備を適切かつ計画的に行うため、若手教員を中心とした図書整備委員会と連携し、利用者の視点に立った整備を推進している。

図書整備委員会は、2010年3月に名称の変更を行った。1996年に「図書電子化小委員会」として発足以来、2004年には所内委員会「図書電子化委員会」として承認され、研究者の立場から図書情報の電子化を立案計画すると同時に、図書室職員への日常的サポートを担ってきた。現在も図書室と密接に連携して活動しており、国内有数の学術情報を本所の研究に生かす上で不可欠な委員会であるが、その一方で、当初の目的であった電子化作業を概ね完了し、主な活動内容は専門資料の選定やデータベース環境の整備、利用者への広報・ガイダンス等へと変遷していた。委員会の名称をより実態に合うものにする事で、活動の一層の推進を図るものである。このような研究者と図書室の連携による情報整備に関わる委員会の存在は学内唯一であり、特筆されるべきことである。

現在、外国雑誌価格の高騰や、二次情報データベースの多様化など、様々な問題に係る取り組みが全学的に行われる状況において、利用者ニーズを的確に把握し、かつ親しみやすい快適な図書室であるよう常に心がけている。

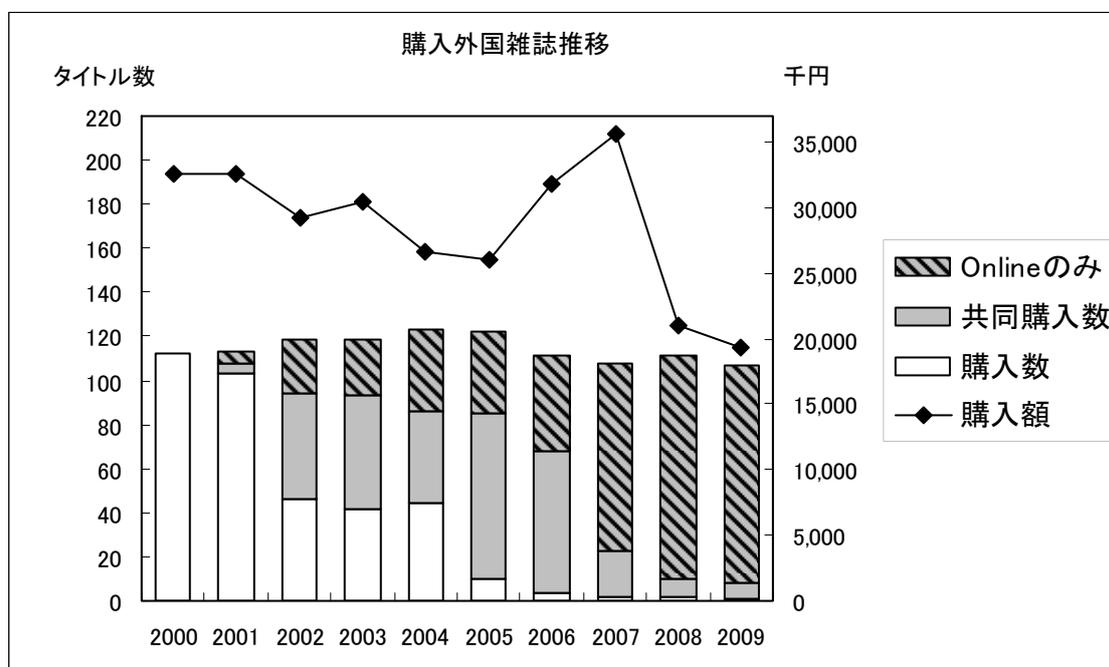
3. 購読雑誌および電子ジャーナル

東北大学では、2001年のAPS誌共同購入を皮切りに、外国雑誌を中心とした全学共同購入と電子ジャーナル整備が、附属図書館の「学術情報整備計画」の下で段階的に進められてきた。

図書室ではこの整備計画に従い、電子ジャーナルのみの契約への切り替えなど、外国雑誌購入費抑制のための努力を積極的に続けてきたが、雑誌価格の高騰は止まらず、2007年には共同購入以前の購入費を超える状態となった。しかし、当初から要求が続けられていた電子ジャーナルの全学共通経費化について、2008年から全学的基盤経費として2億円が措置されることになり、ようやく部局の負担が緩和された。

しかしながら、外国雑誌は毎年約5%の値上がりが続いており、さらなる全学的な対策が必要である。共同購入以前に購入していたタイトルの9割以上がすでに電子ジャーナルのみの契約となった現状においては、新しいタイトルの追加はもとより、現在利用できるタイトルの維持も難しくなっている。この問題は世界共通のものであり、出版社との交渉が各地で続けられている。

なお、冊子体の中止は、製本費の抑制と配架スペースの節約にも効果が現れている。



*Online数は共同購入のうちの電子ジャーナルのみ利用できる数

*2008年度の購入額の下落は全学的基盤経費の措置が主な要因であり、2009年度の下落は円高の影響によるものである。

4. 蔵書管理

4.1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。継続購入としては、国際会議録の新刊の追加や欠号補充、個人で購入しにくいシリーズものを主な対象としており、その点数は20数点に上る。また、他大学への複写依頼が多いもの、物質材料系の基本的な図書（日本金属学会刊行物など）、研究室・図書整備委員から推薦された図書等について、新刊カタログなどを参考に充実を図っている。今年度は157点の図書を推薦により購入し、ほかにもASTM Annual Handbook、JISハンドブックを整備した。

電子ブックの整備は随時検討しながら行っており、その利用数は大学全体で急速に伸びている。今年度、大学全体で購入するタイトルが大幅に増えた結果、電子ブックの認知度も高まったことが主な要因と考えられる。金研でも図書室オリエンテーションでの案内や、チラシの所内配布等による広報を積極的に行った。

4.2 蔵書点検

毎年2回、書庫の蔵書点検を定期的に行い、不明図書・発見図書の確認や配架整備を行っている。

4.3 金研出版物の保存

金研で発行する報告書や広報誌などは、可能な限り収集し図書室で保存している。また、ここ数年それらに対する問い合わせなども増えていることから、過去に発行されたものについても収集していきたいと考えているが、過去の欠号補充が困難なものもあり、スペースの問題も含めて今後検討が必要である。

5. 利用者サービスの充実

利用者との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年4月、金研の新構成員のために図書整備委員を講師として、主要なデータベースの講習と図書室のオリエンテーションを行っている。今年度は74名の参加があった。内容については毎年見直しを行い、今回は『ICSD』（無機結晶構造データベース）を対象に加えて周知に努めた。また外国人利用者のためにデータベース説明資料を英文化し、ホームページに掲載した。

さらに、附属図書館が随時開催する各種データベース等の説明会の際は、金研の講堂での開催に積極的に協力し、学生や研究者がより効率的に利用できるようサポートしている。

開催日	内容	主催	参加者
2009.4.24	金研図書室オリエンテーション (13:30-15:00) 第1部 図書室オリエンテーション ・ 施設・利用案内、蔵書検索、電子ジャーナル、MyLibrary 第2部 各種データベースの使い方 ・ ICDD Cards ・ Alloy Phase Diagrams Online ・ ICSD ・ Web of Science ・ GeNii	金研図書電子化委員会・図書係	74名
2009.8.6	ResearcherID 説明会 (13:30-15:00) (講師:トムソン・ロイター 広瀬氏)	図書係	21名
2009.10.23	SciFinder 講習会 (10:30-12:00) (講師:化学情報協会 古高氏)	附属図書館	13名

5.2 情報検索コーナー

図書室では図書整備委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで利用者が常時使えるように環境を整えている。また安全対策として、ウィルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。近年、データベースのオンライン化が進み研究室から利用できる環境が整ってきているが、契約上図書室でしか使えない重要なツールもあり、今後も情報検索コーナーの充実を進めていきたい。

CD-ROM	オンライン
Binary Alloy Phase Diagrams	Alloy Phase Diagrams Online
ICDD Cards (2009)	GeNii
Landolt-Bornstein Comprehensive index	ICSD
Pauling File	Journal Citation Reports Web
Pearson's Crystal Data	KOD (研究社オンライン・ディクショナリー)
Phase Equilibria Diagrams (1913~2003)	Online Catalog (図書館蔵書検索)
その他	Online Journal
	Phase Equilibria Diagrams Online
	SciFinder Scholar (1840~)
	Web of Science (1900~)
	特許電子図書館(特許庁ホームページ)
	その他

5.3 ホームページの充実

図書室では、有用な情報をいち早くキャッチし、「お知らせ」での広報やリンクを作成するなど充実

したホームページとなるよう心掛けています。

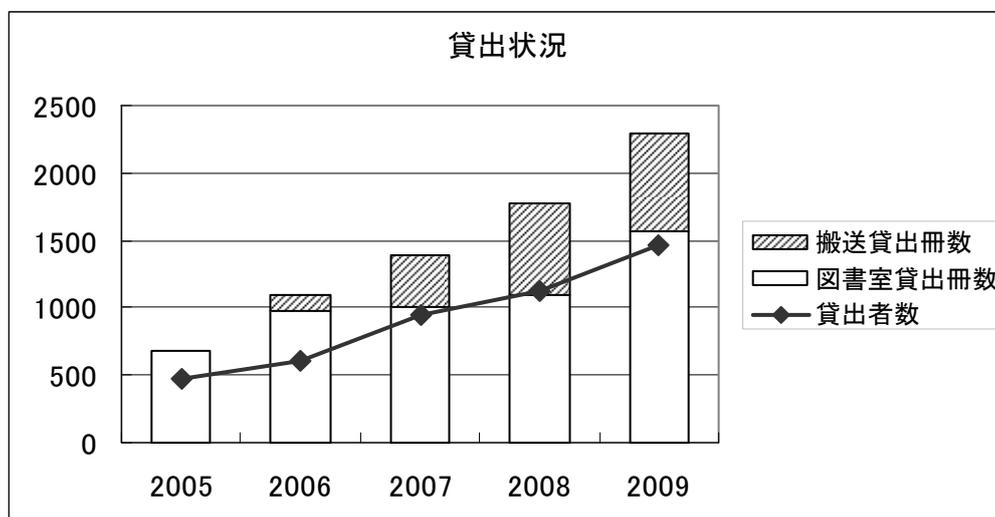
また、外国雑誌の電子ジャーナル化が進み、予算の面からも電子ジャーナルのみの雑誌が増えているが、Online Journal のリンク集（金研版）は2か月毎に係員全員でリンクチェックを行うなど、きめ細かなメンテナンスを行い、利用に支障のないようにしている。その他、冊子体の新着状況を確認できるリンクや利用上のルール案内、情報検索（データベース）に関するQ&Aや使い方なども掲載し、利用者の疑問がホームページ上ですぐに解決できるよう充実を図っている。

さらに、他にあまり例のない国際会議録のページについては、金研に関連する43の会議について、過去の会議録を追跡調査し、最新の所蔵情報も継続して掲載するようメンテナンスを行っている。

5.4 資料の提供

電子ジャーナルやデータベース等、デジタル・コンテンツの利用が増大する一方で、冊子体である図書の貸出状況（貸出冊数・貸出者数）も、次の図のようにこの数年間で急激に増加している。特に最新の内容を扱った専門書や、金研の研究者による著作の貸出が多いようである。今後も有用な図書の充実に一層努め、利用に供していきたい。

また、2007年度から本稼働したキャンパス間資料搬送サービスの利用も伸びている。このサービスは、利用者が指定する図書館（室）に取り寄せ貸出・返却を行うことができるもので、他キャンパスはもとより、片平地区内にある他の研究所図書室についても可能であり、利用者には大変好評である。今年度は、本館、工学分館を主とした他館からの受取が約560冊、金研からの発送は約200冊、金研から各館への返送は約800冊であった。



5.5 利用環境・施設の整備

近年進めてきた学術雑誌の電子ジャーナル化に伴い、図書室の利用方法も新着雑誌の閲覧から参考図書やデータベース等の資料利用へと変化してきている。そのため新着雑誌用の書架の一部が不用となったことを契機に、今年度は所長裁量経費により以下の通り図書室の環境整備を行った。

今後の課題は、耐用年数が過ぎている電動書架の更新、無人開室時の貸出手続き簡便化等である。

① 閲覧室

不用となった新着雑誌用の大型書架 2 台を撤去し、コンセントの利用が可能な個人用の閲覧机 4 台と参考図書用の書架 1 台を増設した。また、ブラウジング用のツールやサインスタンドも設置した。さらに、利用動線に合わせて家具類のレイアウトも一部変更した。

② 書庫

導入後 15 年が経過していた電動書架の一部が故障したため、修繕工事を行った。また、蔵書検索用の机を背の高いものに交換し、立ったままの検索がしやすいようにした。

③ 地震対策

書架からの図書落下を防止するため、閲覧室と 3 号館書庫の高書架 380 段を対象に、地震時に自動でバーが上がるパーツを装備した。

④ 防犯対策

夜間・休日の無人開室時間帯の防犯対策として、24 時間稼働の防犯カメラシステムを、閲覧室・書庫・3 号館書庫に導入した。



レイアウト変更後の閲覧室

5.6 その他

貸出冊数の増加を受けて、これまで昼休みはカウンター業務を休止していたが、開室の是非について検討を開始した。

また 2007 年度にグローバル COE の英語教育強化に基づき導入した英語の e-ラーニング教材「NetAcademy2」について、教育支援という観点から利用者登録を図書室が行っている。「NetAcademy2」は所内のパソコンであればどこからでも利用可能である。さらに英語教育用のスペースとして 2 号館 303 号室に教育プログラム室が設けられている。

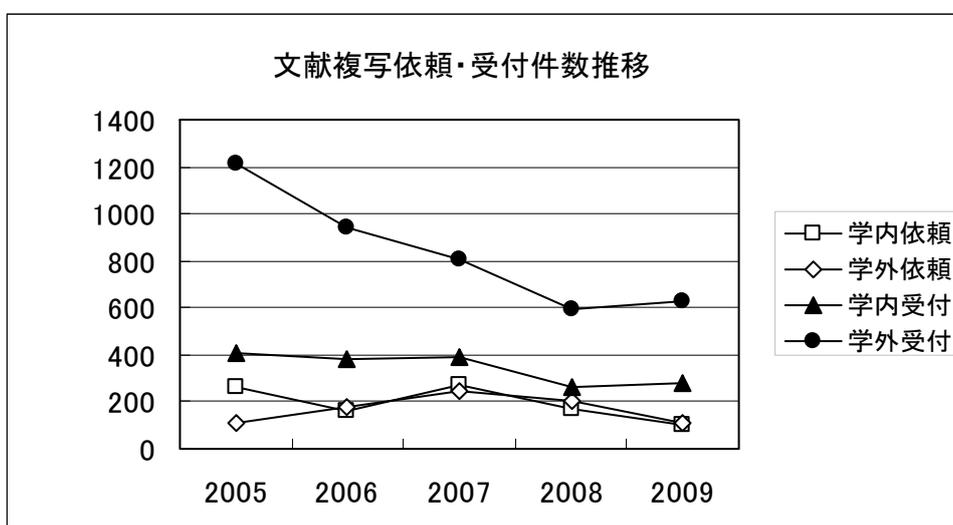
6. 文献複写（図書館間相互利用サービス）

学内の各図書館および学外の大学図書館との相互の文献複写サービスは、研究遂行上、学術雑誌論文が欠かせない金研においては重要な業務の一つであり、必要な論文を依頼から 1 週間以内に利用者へ手渡せるよう迅速に処理している。ただ、学術雑誌の電子ジャーナル化の影響で全国的に文献複写

の件数は減少傾向にあり、金研においても同じである。特に学外からの受付件数は近年大幅に減少しているが、これは学術情報整備計画により、外国雑誌の冊子体を段階的に中止してきたためと考えられる。しかし、このような状況の中でも、今年度の受付件数は依頼件数の約4倍強であり、このことは、金研の学術雑誌コレクションの充実度を示すと共に、全国共同利用・共同研究機関としての使命達成に貢献しているといえる。

また、文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも利用されている。著作権法や出版社許諾の範囲内という制約があるが、学内限定で行っている e-DDS (Electronic Document Delivery Service) は、研究室に居ながらにして申し込み、受け取りができるため、利用が増加している。

今後の課題としては、現物貸借や私費複写の対応などが挙げられるが、これらについては引き続き検討中である。



	依頼			受付		
	学内	学外	計	学内	学外	計
2005 年度	260(54)	108(8)	368(62)	411(9)	1,217(11)	1,628(20)
2006 年度	161(40)	177(2)	338(42)	384(4)	944(11)	1,328(15)
2007 年度	273(71)	244(8)	568(79)	389(28)	803(19)	1,199(47)
2008 年度	171(23)	202(3)	301(26)	262(12)	594(30)	856(42)
2009 年度	99(44)	107(11)	206(55)	281(52)	626(6)	907(58)

* ()は画像伝送システムによる件数(内数)

7. その他

研究支援の役割を確実に果たし、また利用者のニーズに応えた多様なサービスを提供するため、図書室職員は各種研修会、勉強会に積極的に参加している。また図書系職員として、図書館本館が中心

になって進めている各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

7.1 研修、勉強会等

- ・ 大学図書館職員短期研修
- ・ 図書館職員総合研修
- ・ 東北地区大学図書館協会フレッシュパーソン・セミナー
- ・ 目録システム地域講習会（図書コース）
- ・ 事務情報化講習会
- ・ Scopus 講習会
- ・ 特許講習会

7.2 各種委員会、ワーキンググループ、会議等

- ・ 図書館情報教育支援 WG
- ・ 次期図書館システム検討 WG
- ・ 附属図書館部課長打合せ
- ・ 全学図書系係長等会議
- ・ 附属図書館商議会（陪席）
- ・ 附属図書館運営会議（陪席）
- ・ 学術情報整備検討委員会（陪席）
- ・ 分野別資料選定 WG（陪席）